

表 合 計

平成二十七年
国 語
前期選抜学力検査問題
(二時間目 四十五分)

受検番号
氏 名

注 意

一 問題は、表と裏にあります。
二 答えは、すべて解答欄に記入しなさい。

合 計

三 「枕草子」の一節とその解説文を読んで、1～7の問いに答えなさい。

梨の花、よにすさまじきものにして、近うもてなさず、はかなき文付けなどだにせず、愛敬あいぎやうおくれたる人の顔などを見ては、たとひに言ふも、げに、葉の色よりはじめて、あいなく見ゆるを、唐土たうどには限りなきものにて、詩にもつくる。なほさりとも、やうあらんと、せめて見れば、花びらの端にかしきにほひこそ、心もとなうつきためれ。楊貴妃やうきひの、帝の御使つかひにあひて、泣きける顔に似せて、「梨花一枝、春、雨を帯びたり」など言ひたるは、おぼろけならじと思ふに、なほいみじうめでたきことは、たぐひあらじとおぼえたり。

*もてなさず…もてはやすことをしない *はかなき…ちよつとした
*心もとなう…ほんのりと *めでたき…すばらしい

1 たぐひを現代仮名遣いに直しすべて平仮名で書きなさい。

2 解説文の「 」に入る「枕草子」の作者名を書きなさい。

3 葉の色よりはじめて、あいなく見ゆるをの現代語訳として適するものを、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

- ア 葉の色には以前ほど愛着を感じていないが
- イ 葉の色はもとから関心をもつて見ているが
- ウ 葉の色からしておもしろくなく見えるが
- エ 葉の色と比べて最初からつまらなく感じるが

4 おぼろけならじの本文中における解釈として適するものを、次のア～エから一つ選んで記号を書きなさい。

- ア 並々ではない
- イ ぼんやりしていない
- ウ 特別ではない
- エ はっきりしていない

5 「梨花の花」に対する、唐土(当時の中国)の人々の捉え方が表されている部分を、古文から十五字で抜き書きしなさい。

6 「梨花一枝、春、雨を帯びたり」の漢詩は、楊貴妃のどんな様子を表しているのか。解答欄にしたがつて十字以内で書きなさい。

楊貴妃が

様子